

# 令和7(2025)年度 学校経営方針

福崎町立福崎東中学校

## 1 校訓

「自主 協同 錬磨」

『自主』とは、「自分で判断する力」を持つこと

『協同』とは、「共に伸びようとする力」を持つこと

『錬磨』とは、「自己の心身を鍛え、最後までやりぬく力」を持つこと

## 2 本校のめざすもの

現在、少子高齢化による人口流出が進む中で、グローバル社会が進展しており、高度情報化等により日々多様化している。教育を取り巻く環境では、予測不能とされる環境の中で、変化に柔軟に対応し社会を創造していく力の育成が必要となっている。中学生として成長期にある本校生徒も、不登校の課題に直面し、よりたくましくしなやかな生徒の育成に努めなければならない。

そこで、兵庫県の教育基本理念である「兵庫が育む ところ豊かで自立する人づくり」（絆を深め在りたい未来を創造する力の育成）を推進するため、「学校教育目標」「めざす学校像・生徒像・教師像」を掲げ、長期的な展望を持って、学習活動や学校生活の充実を図る取組を進める。併せて、生徒が個人として、集団として成長できる機会を多く設定し、自主・自立の精神を育むと共に、自立に向けて意欲的にやり遂げる風土を築く必要がある。

本校の校風として、生徒たちが「ふるさと福崎」に誇りを持っていること、互いに和気藹々とした雰囲気の中で屈託なく生活していることが挙げられる。それらは、本校創立当初から注がれてきた地域の方々の本校に対する温かいまなざしと支援の賜である。この良き校風と校訓の精神を基本とし、学習の場としてよりふさわしい学校環境を作るため、生徒と保護者と教師が信頼関係を深め、心を通わせ、互いに切磋琢磨する教育の充実を一層図っていく。

21世紀の中心を担う生徒たちには、福崎東中学校に学ぶ喜びを持たせ、素直な心、健やかな心、思いやりの心、たくましい心を涵養するとともに、世界に通じる様々な力を培うために、広い視野に立って物事を捉え、大きな志を持って未来に向かって成長していくことを願って、令和7年度の学校教育目標を以下のとおりとする。

### 〔令和7年度 福崎東中学校 学校教育目標〕

ふるさと「福崎」から世界へ、広い視野と大きな志を持って、

**未来を切り拓く たくましい 生徒の育成**

## 3 めざす学校像

- (1) 自他を大切にし、一人一人が生き生きと輝ける学校
- (2) 学習の場としてふさわしい学校(安全・清潔・潤い)
- (3) 保護者や地域に愛され信頼される学校

## 4 めざす生徒像

「東中生としての誇りを持ち 共に伸びようとする生徒の育成」

- ① 明るい挨拶ができ、感謝の気持ちが表せる「素直で健やかな心を持った生徒」
- ② 仲間を大切にし、相手のことが考えられる「思いやりの心を持った生徒」
- ③ 自己を高めるため粘り強く活動できる「たくましい心を持った生徒」

## 5 めざす教師像

### 「研修を深め 自ら資質の向上に努める教師の育成」

- ① 教科の専門性に優れ、「わかる授業づくりに力を注ぐ教師」
- ② 生徒の豊かな感性を受け止め、心のふれあいを大切にする「人間性豊かな教師」
- ③ 学校は生きた組織体であることを認識し「互いの連携を大切にする教師」…「ほうれんそう」の再認識
- ④ 生徒・保護者・地域の信頼に応える「品性と士気を大切にする教師」
- ⑤ 勤務時間の適正化を意識し、「自らの心身を管理できる自律した教師」
- ⑥ 「『予』を意識する教師」

## 6 学校経営の基本方針

### (1) 自他を大切にし、一人一人が生き生きと輝ける学校づくり

- ① 生徒の自主的・実践的な活動を支援し、生徒が個性を生かして主体的に活躍できる場の設定に努め、着実にやりぬく「たくましく、しなやかな心」を育てる。
- ② 命と人権を大切にする心を育み、共感的理解と人間的なふれあいの中で、行きすぎた指導や画一的な指導に陥らないように留意し、生徒指導の充実を図る。
- ③ 特別支援教育の体制の充実を図り、生徒一人ひとりの状況や状態を的確に把握しながら適切な指導に努める。
- ④ 不登校に対する未然防止の手立て、ならびに不登校生へ適切に対応する体制を整え、個々の生徒に応じた指導に努める。
- ⑤ 学校の教育活動全体で「心の教育」を推進し、内面に根ざした道徳性の育成に努める。

### (2) 学習の場としてふさわしい学校づくり

- ① 凛とした雰囲気をつくりだし、静と動の切り替えを大切にする。  
・校舎内外の清掃、整理整頓、掲示教育を充実する。
- ② 教師自らが手本となり、TPOにあわせた言動を心がける。  
・清潔な身だしなみや丁寧な言葉遣いを心がける。

### (3) 保護者や地域に愛され信頼される学校づくり

- ① 学校運営に、学校評議員、地域の人々の意見を反映しながら、その協力を得るなど、一層地域に開かれた学校づくりを推進する。  
・様々な機会に、地域や家庭との意思の疎通を図り、理解と協力を深め教育効果を高める。  
・学校評価の充実・改善に取り組み、オープンスクールを推進する。
- ② 保護者との連携を密にし、同じ方向で指導できるように信頼関係を構築する。  
\* 悪いことばかりでなく、よかったこと、達成できたことなどを積極的に情報発信する。  
\* 人間性の涵養に努める。涵養したものが湧出する。  
同じ指導をしても、湧出するオーラでとらえ方が変わる。

## 7 特色ある学校づくり

### (1) 生徒主体のボランティア活動の実践を通して、心豊かな人づくりを推進する。

コロナ禍で中断していたもの、継続できなかった活動を精査し、実行していく。

本校は、生徒会が中心となって、老人福祉施設への訪問活動、アルミ缶など資源の有効利用運動、クリーン作戦など様々なボランティア活動に長年取り組んできた。その活動が評価され、平成3年に「全国青少年善行表彰」を生徒会が受賞。さらに、平成8年度より3年間「ボランティア活動普及協力校」の指定を受け、平成10年には「くすのき賞」を受賞した。また、例年の車椅子の寄贈に対して、福崎町社会福祉協議会から毎年表彰されている。さらに、平成28年度には、青少年活動を通してこころ豊かな地域づくりに貢献したとして、中播磨青少年本部より表彰された。

本年度も、「明るい町・楽しい学校づくり」に対する生徒の発想を大切にボランティア活動に取り組み、個性豊かな望ましい人間関係を育て、魅力ある学校づくりを目指す。

#### 《実践事項》

##### 〈1〉自主的な福祉・ボランティア活動の探求

- ・町内独居老人宅配の弁当に添える「お弁当メッセージ」作成
- ・福祉基金の有効活用

##### 〈2〉老人福祉施設への訪問活動などの再開

- ・福祉施設や病院等の慰問交流会
- ・諸団体（サークル活動）との交流

##### 〈3〉福祉体験活動の発展的実施と体験的な道徳の授業の開発

- ・1年生（手話教室） 2年生（車椅子体験） 3年生（\*点字教室）

##### 〈4〉その他の福祉的・ボランティア的な取り組みの推進

- ・アルミ缶回収運動（ハッピーウィークの取り組みとして実施：車椅子寄贈資金へ）
- ・善意募金、赤い羽根共同募金、歳末助け合い募金などの実施（校内、校外）
- ・「ふれあいクリーンデー」として地域清掃活動の実施（生徒会主催）

#### (2) ふるさと「福崎」に根ざした地域学習を通して、地域社会の一員としての自覚と、郷土を愛しその発展に寄与する心を育てる。

校区は、商工業・住宅地域と農村地帯とに分かれた準農村地帯で、近くには、民俗学者柳田國男の生家、明治の郡役所を移築復元した歴史民族資料館、追灘で有名な神積寺などがあり、歴史的にも文化的にも恵まれた土地柄である。

本年度も、「総合的な学習の時間」や「トライやる・ウィーク」を中心に地域学習に取り組み、「ふるさと福崎」を見つめ直すことで、郷土や伝統文化を大切にする心の涵養と人間としてのあり方や生き方についての自覚を高める。

## 8 令和7年度の重点目標

### (1) わかる授業づくりに力を注ぎ、授業を通して生徒の学力向上に努める。

- ・研究授業や相互参観による意見交換を行い、世代を超えた指導の交流を図る。
- ・生徒のつまずきの解消や系統性を重視し、指導の充実を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を図る。
- ・不易と流行を意識し、自身の指導方法を見つめ直す。
- ・ICT機器の効果的な活用を目指し、校内研修・授業研究の充実を図る。
- ・朝読書、「福咲学カアップタイム」を活用して、個々の能力・学力の向上や読書活動の充実を図る。

(2) 命と人権を大切に、共に生きる心や思いやりの心を育む教育を推進する。

- ・教師自身の道徳心、人権感覚の向上を図る。
- ・学校教育の全領域で行う「特別の教科 道徳」の研修を継続し、未来に向けて主体的に人生や社会を切り拓く人づくりの基盤としての道徳性を養う。
- ・道徳で包括できない人権教育を、総合学習等で積極的に補っていく。
- ・マイノリティの立場を理解に努め、マジョリティ側から意識改革を進めていく。

(3) 生徒指導体制を確立し、人間的なふれあいに基づく指導の充実を図る。

- ・生徒の自立心を支援する指導を全職員共通理解のもとに推進する。
- ・指導方法は違って、同一方向での指導を心がけ、お互いをサポートしながら生徒の内面理解に基づく指導を心がける。
- ・定期的に校内委員会を持ち、不登校等への対応と相談室の運営等の充実を図る。
- ・生徒理解を深める教育相談や関係機関との連携を含めた校内研修を充実させる。

(4) 生徒の活動を積極的に支援し、自立的・実践的な力を高める。

- ・自主、自立の精神を育む生徒会活動を充実させる。
- ・「特色ある学校づくり」としてのボランティア活動や地域学習を充実させる。

(5) 生きる基盤となる食を考える食育を推進する。

- ・各教科指導、給食指導等を通して、身近な食品や料理等について考える機会を増やす。
- ・生徒会専門部の活動の中で食育に関わるものを取り上げ、生徒の食育への関心を高める。

(6) 保護者や地域社会との連携を深め安全で安心できる学校づくりを推進する。

- ・登下校の安全確保に努め、交通マナーの向上に取り組む。
- ・地域に開かれた学校づくりに努め、保護者や地域社会との連携を図る。
- ・校外への発行文書は、起案書を用い、決済を受けてから発行する。

(7) 「部活動ガイドライン」を踏まえ、適切かつ効果的な部活動運営を進める。

- ・地域連携を視野に入れた持続可能な部活動の運営を検討していく。
- ・部活動検討委員会等で今後の運営について話し合う。

(8) 業務改善の取組を進め、教職員に時間的・精神的なゆとりをつくり出す。

- ・教職員が心身ともに健康で、生徒と向き合う時間を確保できるよう取り組む。
- ・業務改善が組織の取り組みであることを理解する。
- ・情報は、自分で管理し、計画推進ができるようにする。
- ・普段からの会話を増やし、連携を密にし、情報交換を心がける。「ほうれんそう」と「おひたし」
- ・前後に携わる人がいることを意識し、文書の提出期限を守る。
- ・会議を効率的に運営し、生徒へ関わる時間を増やす。

\*金曜日に次週の打ち合わせを行う。職朝、学年打ち合わせは確認のみとする。

\*先を見通した計画を立てる。

職員会議の文書は、2日前にはホルダに入れ、各自が目を通し、提案者はポイントのみを説明する。

- ・誰もが居心地の良い、職員室、職場環境となるように努める。

\*口は人を励ます言葉や感謝の気持ちを言うために使おう。